第20回関東教育オーディオロジー研究協議会　夏期研修会　講座概要

	講座名	講師	講座概要
A	発音指導の基礎と実際	松田・山村	A理論 Ⅰ 発音指導（広義）の基本プログラム 〈発息・発声・発音(狭義)・発語・発展〉 Ⅱ ローマ字式発音誘導法 B実際 Ⅰ 各音の誘導ワンポイント Ⅱ 子どもの喜ぶ発音指導教材10選 ①しゃぼんだま　②ゴム手袋風船　③あいうえお体操　④しおどん　⑤ ソフトロケット1.2.3 ⑥50音でことば作り　⑦ものまねパンダ・・・・
B	乳幼児教育相談	間根山・伊藤	乳幼児期をどう過ごすかは子ども本人や養育者である保護者にとっても、その後の発達や親子関係に大きく影響してきます。このことは、聴覚に障害のある子どもたちや保護者の方々にとっても例外ではなく、むしろとても重要な時期と言えます。 保護者の方の価値観が多様化する中、皆さんからの疑問や話題を中心に、より良い保護者支援の在り方やそのポイントについて共に考えます。
C	補聴器のフィッティング	三浦・手塚・石垣	本講座を選択された先生方と一緒に事例について考えます。補聴器のフィッティングに関する事例を中心に具体的な支援について議論します。幼児・児童・生徒の補聴機器の選択や調整、日常的な装用や活用の問題など、相談したい事例をお持ちの先生方は、オージオグラム、補聴器特性表、補聴器調整データなどの資料をご持参の上、ご参加いただければと思います。
D	通級／難聴学級	田原・實田	本講座では、参加者の皆さまと共に考えていきたいと思います。田原より日本全体の課題や通常学級で学ぶ聴覚障害児の「隠された困難さ」について話題提供し、続いて實田より地域支援やSTとの連携についても触れながら話題提供します。その後、参加者の皆様からの情報共有を通じて、より良い支援のヒントを一緒に探っていきます。
全体講演	少し先を見据えた聴覚障害児教育を考える	田原　敬	これまで「聴覚障害児教育」というと、聾学校や難聴学級での指導を思い浮かべることが多かったのではないでしょうか。でも今は、そうした枠組みを見直して、もっと幅広く考えないといけない時代になっています。軽度・中等度の難聴、片耳難聴のお子さんも含めて、すべての聴覚障害児を対象に支援を考える必要があります。そして大切なのは、「きこえていればOK」ではないということです。一人ひとりが抱える多様な問題にしっかりと目を向けていかなければなりません。こうした問題提起をもとに，グループワークなどで先生方の声を聞かせていただきながら、みんなで答えを考えていけたらと思います。
全体講演	教育オーディオロジーが中心に置くべきもの -子どもの発達と家族への支援-	富澤　晃文	近年、聴覚障害児教育において家族中心のアプローチ（Family Centered Early Interventon)が提唱されています。家族の障害受容の段階における悲しみ・不安・怒りといったネガティブな感情のとらえ方、子どもとのポジティブ/インタラクティブな対話的関わりの発達的意義を主軸に、教育とオーディオロジーの展開についてみなさんと一緒に考えましょう。